

会議録

会議名	第39回 海津市地域公共交通会議
日時	令和7年1月22日（水） 15:00～16:00
場所	海津市役所 東館4階 災害対策本部室
出席者	委員22名 事務局4名 (株)テイコク2名
傍聴人	0名
議題等	報告1 海津津島線及び石津線＜臨時便＞に係る運賃の決定について 報告2 バス停留所の名称変更について 議題1 【継続】 定時定路線バスの再編（案）について 議題2 路線の廃止について 議題3 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

報告事項

【報告1】 海津津島線及び石津線＜臨時便＞に係る運賃の決定について

【報告2】 バス停留所の名称変更について

事務局から資料1、資料2に基づき説明

協議事項

【議題1】 【継続】 定時定路線バスの再編（案）について

【議題2】 路線の廃止について

事務局から資料3-1、資料3-2、資料4に基づき説明

（議長）

- ・議題1について、バスの乗り入れ先である津島市からご意見をいただきたい。

（津島市）

- ・海津津島線の再編について、津島市として支障はなく問題ない。津島駅から乗車された方に海津市内の温泉の優待券をいただきありがたいと思う。今回のダイヤ改正と車両の大型化については、広報に掲載し周知を図ってまいりたい。

（議長）

- ・津島市から運行について承諾をいただいた。

（委員）

- ・海津津島線の実証実験が2年間延長となったことは良いことだと考えている。最終便が22時までの運行となっているが、他市町のコミュニティバスでは遅くても20時台くらいまでしか運行していない。遅い時間に乗車している人は1～2人程度と少ないため見直すことは考えていないか。

→海津津島線は名古屋圏との接続の観点から、時間が遅くなった場合でも名古屋から帰れる

よう遅い時間帯にも設定している。現時点で短縮する考えはないが、2年間の実証実験の延長を踏まえて次回に検討したい。

(委員)

・遅い時間に通勤通学で利用する方はいないと思う。民間が運行する路線であれば乗客が乗っていなければ減便にするのが普通なので見直しを検討してほしい。

→ご意見を踏まえ、今後の実証実験の結果を注視し、次の再編時に向けて検討を進めたい。

(委員)

・海津津島線の車両の大型化に伴い、経路上の大型車通行禁止等の交通規制はかかっているか。

→関係機関との協議により、大型車の通行に問題がないことを確認している。

(委員)

・団体客の利用がある場合はどのように対応しているか。利用したいと海津市には羽根谷だんだん公園の桜、津島市には天王川公園の藤棚等の観光資源があるが、津島市から来てもらったり、海津市から津島市に行ったりするような、イベントの企画は考えていないか。

→車両の大型化に伴い、4月以降は団体の利用時でも問題なく利用できると考えている。観光の企画までは考えていないが、各市で連携しながらPRを図っていきたい。

(委員)

・集客ということであれば観光とマッチングしないといけないと思う。せっかくいい観光地があるので、観光も含めてお互いにアピールし、市のつながりを持って集客を図るという検討も今後していただきたい。

(岐阜大学 倉内副会長)

・資料3-2に新規路線を運行させるという文言がある。今回は新規路線ではないと思われるが、この表記で手続き上問題ないか。

→海津津島線は4条路線としては新規路線となるが、他の路線は既存路線を運行することになる。

(岐阜運輸支局 黒田委員)

・対象路線、適用除外車両が明記されているため、この資料に基づき協議が整えば、手続き上は特に問題ない。

(委員)

・税金を使って公共交通ガイドブックを全戸配布されているが、効果がどれくらいあるのか疑問である。名古屋までの行き方のプランなどを1枚の簡単なチラシにし、広報に入れる方が効果的なのではないか。デマンド交通のバス停がどこにあるが、自治体単位でももう少し周知徹底させてほしい。地域公共交通会議にとどまらず、社協や老人会でもデマンドバスのPRをしてほしいと

思う。

【議題３】地域公共交通確保維持改善に関する自己評価について

事務局から資料 5 に基づき説明

(岐阜大学 倉内副会長)

・デマンド交通や養老鉄道の利用が非常に増えていることは良かったと思う。定時定路線について、令和 4 年度の実績値が約 6 万人に対して、令和 7 年度の目標値が約 11 万人とほぼ倍の数値となっているが、どのように設定されているのか。

→当初、網計画の目標値はコロナ禍前の平成 30 年度の利用者数を基準値として、各公共交通機関の目標値を設定していた。その後、海津津島線の実証実験が始まる等、路線の状況が大きく変化したことから、令和 6 年 1 月の計画改定時に目標値を見直しているが、全体の公共交通全体の目標値は当初のまま変更せず、各路線の利用実績の人数割合に基づき公共交通機関別に人数按分することとしたため、利用の多い海津津島線の目標値がやや高めの人数となった経緯がある。

(岐阜大学 倉内副会長)

・目標値と実績値が大きく乖離している理由がわかればよいが、計画策定時から現在に至るまで実車走行距離が変わらず利用客が落ちているのか、他のサービスが新たに加わったことで相対的に落ちているのかなど、確認しながら進めていただきたい。

【総括】

(岐阜大学 倉内副会長)

その他

(津島市)

津島市の観光について説明

閉会